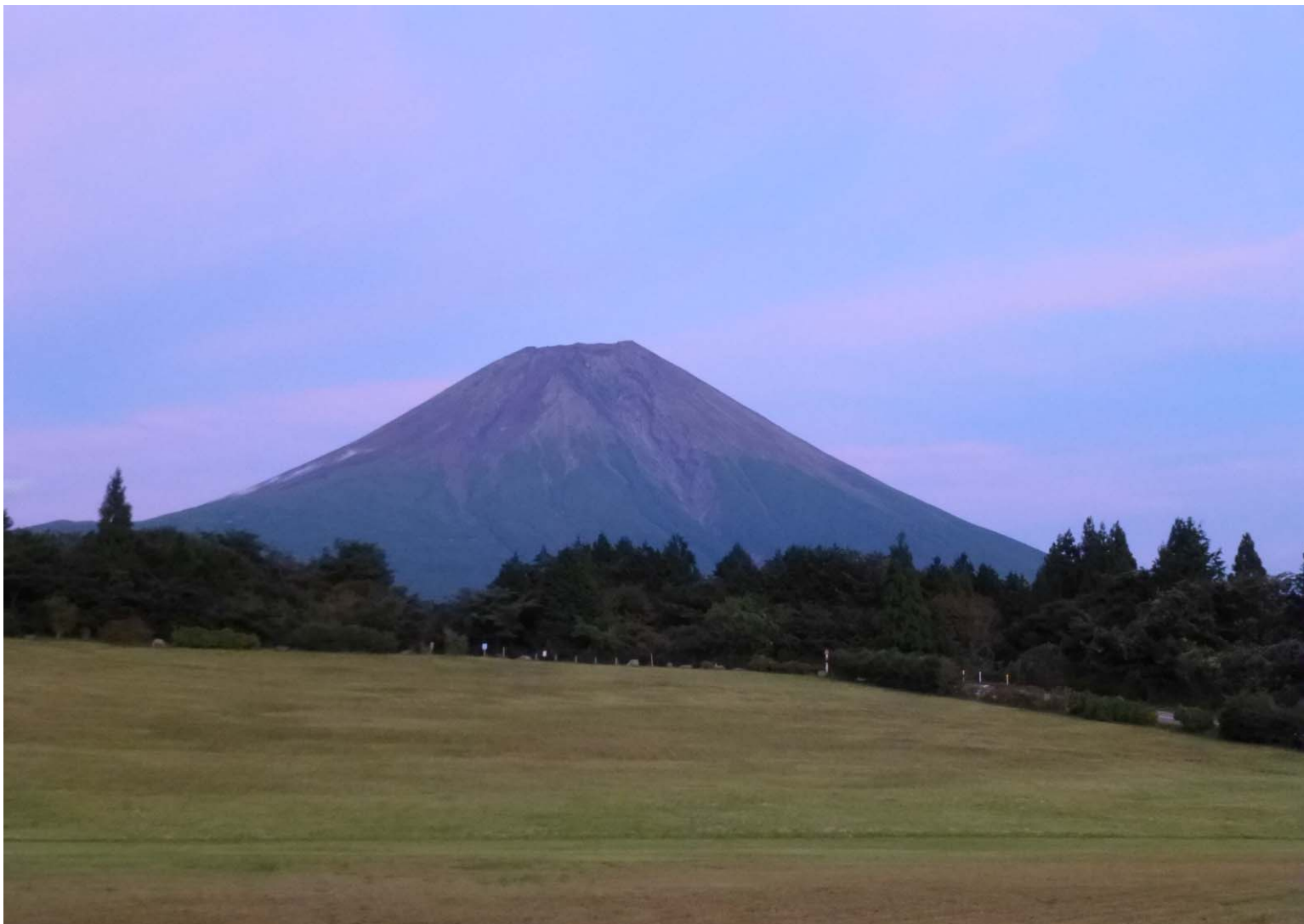




めだか

清流を止まることなく、川上をめざして…



1. バーベキュー親睦会

【総務・営業室 上杉 和博】

9月14日(日)に富士ミルクランドにて、富士設計(株)社員とその家族を交え秋の味覚を楽しむバーベキューを行いました。

どこまでも抜けるような青空の下、集まった仲間たちは子供を連れ普段はお目にかかれないお父さんお母さんの顔をしておりました。

笑顔一杯の中で始まったバーベキュー会場では、アコギリ

(アコースティックギター×朝霧)を開催しており40代・50代の私たちがついて行ける懐かしの曲♪が多く演奏され、草原の爽やかな風が吹き抜ける中での心地よい時間を過ごしました。

バーベキュー、生ビール、ジェラート、ソフトクリームを飲んで食べて心もお腹も一杯にしてリフレッシュ完了！！

社員一同明日からまた頑張ります。(*_*)ぎり



2. インドネシアでの3D計測について

【調査情報室 海野 敦司】

3D計測-活動報告-

昨年に引き続き、今年も3D器材を担いで海外を含む出張へ行って参りました。本年は、6月中旬にオーストラリア、8月下旬に沖縄県、9月初旬にインドネシアにおいてそれぞれ1週間程度の現場作業を行いました。

今回の記事は、その中でもインドネシア出張に関して記載させていただきます。インドネシアでは、昨年と同時期に訪れたボゴール植物園とボゴール農科大学演習林の2ヶ所で作業を行ってきました。

演習林施設での生活環境は、標高が550m程の場所にあり朝・夕は涼しく、比較的過ごしやすい場所でした。また、個人的に最も心配していたマラリア蚊に対しては、予防接種と強力な虫よけを用意し万全の態勢で作業をしていましたが、林内には蚊が嫌う樹木が生育しているらしく滞在期間中は、人口の多いボゴール市内とジャカルタの空港で数回刺されただけでした。我々日本人スタッフが念入りに虫よけ&蚊取り線香の準備をしている光景を現地の職人たちは、不思議そうに見ていました。(笑)

現地では大学の宿舎スタッフの方々より食事の支度をいただいていたのですが、もちろんすべて口にすることはインドネシア料理で、なかなか大変だったという感想です。(泣)

2回目のインドネシア…慣れていたかと思っておりましたが、昨年以上にタフな環境で心が折れそうになりました。今回の出張で、また一つ精神力と語学が強くなれたような気がします！！



ボゴール農科大学-演習林



演習林での昼食&3時のおやつ

昼食のメニューは、米と淡水魚らしき揚げ魚・インゲンetc
3時のおやつは、日本のお菓子に例えるとちまきとういうろ
(甘い辛いかのハッキリした食べ物達…)

演習林での作業状況

手前の低木はコーヒーの木です。

3. 富士山 源頭部の3D計測を終えて・・・

【調査情報室 原 寿徳】



御中道での集合写真

調査場所は標高2100m程の位置で、9月の初旬にも関わらず堆積土砂の下には雪があり、日中暖かくなってくると落石が見られるような状況でした。

時間をかけての測量調査は危険を伴う事があるため、短時間で現地を把握し詳細な資料を得られる3Dレーザーの活用により、今後力も注ぎたいと思います。

源頭部での計測は、立石・加藤・小沢・村松・鈴木・原の6名で行いました。当日は会社を夜中に出発し、スバルライン五合目の駐車場に夜明け前に着きました。そこから測量機器を背負い、約3kmの御中道を歩いて大沢崩の現場に向かいました。酸素が薄いなか機材を運ぶため、普段以上に体に疲労が溜まったように感じました。しかし体調を崩すこともなく、雲が発生する前に無事計測を完了することができました。



現場付近の河道状況

4. プライバシーマーク制度

【調査情報室 実石 貴】

最近、右図のようなマークを見かけたことはありませんか。『**プライバシーマーク（Pマーク）**』というものです。これは一般財団法人日本情報経済社会推進協会（JIPDEC）が、個人情報適切に取り扱っている事業者等を認定し、使用できるマークです。当社も平成16年に認定を受け、個人情報保護に努めてまいりました。このプライバシーマーク制度の認定を受けるためには、『**JIS Q 15001:2006個人情報保護マネジメントシステム-要求事項**』に基づいた『**個人情報保護マネジメントシステム（個人情報保護マニュアル）**』を構築します。そしてこのマニュアルに基づいた適切な個人情報の取り扱い、運用を行います。



このプライバシーマーク制度は2年毎に更新審査が行われ、当社は今年が審査対象期日でありました。昨年よりPマーク事務を仰せつかり、初めて更新審査を体験致しましたが、大変緊張しましたが、当社が運用してきた10年の実績や、社員の個人情報取り扱いに関する普段からの高い認識のおかげで、無事審査を終える事ができました。残念ながら指摘事項はありましたが、今後より安全、確実な個人情報保護を実施していくため、謙虚に受け止め改善していきたいと思えます。

当社業務は、個人情報が多く含まれております。時代の変化により、個人情報を取り扱う際に様々なリスクが想定されます。過去の実績を継続し、また新たな時代にも対応すべく、今後も当社は常に高い意識を持ち、個人情報保護に努めます。

5. 富士設計の防災対策

【設計開発室 小野田 金也】

近年、地震・集中豪雨等による自然災害が多く発生しています。災害時に会社が生き残るためには3つの要素が必要と言われています。①災害発生時の対応をより早く、的確にする。②災害復旧をより早くする。③損失をより少なくするである。また、災害対策において何よりも人命の確保が最優先されます。会社が災害対策を継続させるためにはPDCA（計画、実行、点検、見直し・改善）サイクルを社内に定着させ、対策の優先順位を決め、身の丈に合わない対策は考えないで改善していくことが大切です。

我が社の防災組織は防災役務分担として、**情報伝達班、消火班、救出救護班、避難誘導班、給水給食班**が組織されています。

1年に1回は、防災教育・訓練を実施し、災害に関する知識、避難・救出・救護方法、情報収集方法等社員各自の役割を確認し、防災対策に対する見直し・改善を図っています。

また、**緊急連絡網、メールによる安否確認方法等**が構築され、非常物品や救急・救護用品等の**防災用品**も備蓄しています。



防災教育

6. スタッフめだか

【技術開発部長 鈴木 孝之】



4月に国土交通省を退職し、5月から弊社技術部長として入社いたしました、**鈴木孝之**を紹介いたします。

記憶に残る土砂災害

私は富士砂防工事事務所に採用され、その後本省河川局砂防部勤務の機会を得ました。その時の緊急対策を実施した忘れられない土砂災害を紹介します。

一つ目は、昭和57年7月の長崎豪雨災害です。集中豪雨によりがけ崩れや土石流が同時多発し300名からの方が亡くなりました。二つ目が昭和58年の三宅島噴火です。火山灰の堆積により土石流の多発が危惧されました。三つ目が昭和59年の長野県西部地震による伝上沢の大崩壊です。崩壊土砂が谷を流下する際に尾根を乗越えたり、堆積により数十メートルも河床上昇させたりしました。四つ目が昭和60年の長野県地附山地滑りです。地滑りにより住宅などが押しつぶされる様子がテレビで実況中継されました。

近年では、時間雨量100mmや24時間雨量で1,000mmの豪雨による災害が日本各地で発生しています。富士宮においても平成22年9月には約10時間で470mmの雨が降り小規模な土砂流出がありました。この地域においても、経験したことのない24時間雨量1,000mmもの雨が降れば大きな災害発生が予想されます。今後はコンサルタントの一員として地域の安心安全の確保、地域活性化のため努力してまいります。

～編集部より～

朝晩はだいぶ涼しくなり、ようやく秋の気配がしてまいりました。吹いてくる風に爽やかさを感じ、虫の声に耳を澄ましたりと今が一番過ごしやすい季節ではないでしょうか。

これからやってくる本格的な冬にむけ風邪に負けない丈夫な体づくりを心掛けましょう！！

●ご意見・ご感想・ご質問など、お気軽にご連絡ください。

本社 〒418-0022 静岡県富士宮市小泉468-1

TEL 0544-26-5191 FAX 0544-26-8969

<http://www.fujiarchitect.co.jp/>

mail: fujisekkei@fujiarchitect.co.jp

富士支店 TEL 0545-30-6466

